

## 出生時の体重は成長後の主観的厚生に

### どのような影響を及ぼしたのか

#### What effect did birth weight have on subjective well-being after adulthood?

佐藤一磨 (拓殖大学政経学部)

Kazuma Sato (Takusyoku University Faculty of Political Science)

skazuma@ner.takushoku-u.ac.jp

#### 日本人口学会第 76 回大会 報告要旨

これまでさまざまな研究で、出生時の体重が成長後の学業、健康、労働市場での成果にどのような影響を及ぼすのかという点が検証されてきた。この分析の結果、出生時の体重が小さいほど、成長後の学業の成績や学歴、年収、身長が低くなることがわかっている。これらの分析結果が示すように、出生時の体重は、長期にわたる影響を及ぼす。出生時の体重が低いほど、成長後のさまざまな成果指標が低下してしまうという点を考慮すれば、低体重児であった人ほど成長後の主観的厚生が低くなる可能性がある。しかし、出生時の体重と主観的厚生の関係についてはまだ分析されておらず、その実態は明らかになっていない。そこで本研究では、大阪大学の『くらしの好みと満足度についてアンケート (JHPS-CPS)』を用い、出生時の体重と主観的厚生の関係を検証した。本研究の分析の結果、次の 3 点が明らかになった。1 点目は、出生時の体重が小さいほど、大卒割合が低くなっていた。しかし、所得には統計的に有意な影響を及ぼしていなかった。2 点目は、出生時の体重が小さいほど、成長後の体重、身長が低く、主観的健康度も悪化していた。また、定期的な通院割合も多くなっていた。3 点目は、出生時の体重が小さいほど、幸福度が低くなっていた。この分析結果が示すように、出生時の体重は成長後の主観的厚生に明確な影響を及ぼすと言える。